（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和６年度 学校自己評価システムシート（県立妻沼高等学校）

目指す学校像	母校を誇れる生徒を育てる学校

重点目標	
	１　「学び直しから大学進学まで」を保障するため、分かりやすい授業・伸ばす授業を実践する。 ２　「礼儀、身だしなみ、時間厳守」を指導の基本として、思いやりの心と規範意識を醸成する。 ３　計画的なキャリア教育等を実践し、進路知識を深めるとともに意識を高め、一人一人の進路を実現する。 ４　地域との連携を再開し、学校行事・生徒会活動・部活動等の活性化を図り、開かれた活力ある学校づくりを行う。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	５名
	生徒	３名
	事務局(教職員)	３名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　１月２０日 現在）			実施日　令和　７年　２月　７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 生徒の二極化が進んでおり、学習活動にしっかり取り組み生活習慣の確立した生徒も多いが、授業についていけず中途退学や転学となる課題のある生徒も在籍している。日常生活は落ち着いており、適切な学習活動が展開されている。 【課題】 ・外国籍の生徒やコミュニケーションに課題のある生徒も多い中、生徒の状況把握や生徒や保護者の要望や期待、学校生活への思いなどを的確に把握し、生徒の質的な変化も踏まえた指導が必要である。 ・つまづきの改善や基礎学力の向上・定着に向けた取組を、着実に実施していく必要がある。また、日常的な学習習慣を定着させていく必要がある。	・学び直しやつまづき　の解消、基礎学力の向上と定着に継続して取り組む。 ・ＩＣＴの授業での活用を含め、わかりやすい授業の工夫改善に取り組む。	①ｶﾙﾃｨﾍﾞｰﾄﾀｲﾑ（ＣＴ）の効果的な実施と充実と進化、学びの基礎診断の効果的な活用・分析により、つまづきの解消や基礎学力定着を図る。 ②学習課題に主体的に取り組ませると共に、提出物を必ず提出させる指導を徹底する。 ③授業でのＩＣＴの活用に努めるとともに、わかりやすい授業の工夫改善に取り組む。 ④評価基準の明確化と、生徒の学習意欲の向上につながる評価方法の改善に取り組む。 ⑤二者面談・三者面談等を活用し、生徒や保護者とのコミュニケーションを図り個に応じた学習支援に取り組む。	①ＣＴ研修会を複数回実施できたか。 ②学びの基礎診断の分析を指導に生かせたか。 ③課題等の提出を徹底し、適切に評価できたか。 ④ICTを活用した授業に取り組む先生が増加したか。 ⑤「授業の内容がわかりますか」の「生徒アンケート」結果が前年比維持向上したか。（前年：93.0%） ⑥評価基準の明確化、評価基準の改善に取り組めたか。 ⑦「あなたは授業に満足していますか」の「生徒アンケート」結果が前年比向上したか。（前年：89.2%）	①ＣＴ委員会を年3回実施。生徒アンケートの「CTを通して学ぶ姿勢が身についたか」の問いに「身についた・どちらかと言えば身についた」との回答が92.8%であった。 ②4月当初の「学びの基礎診断」結果をCTの実施に生かした。 ③全教科・科目で「課題」の提出を重視した評価を実施した。 ④ICTの授業での活用方法は、教科・科目・単元により、教員個々が効果的な学習となるよう工夫して取り組んだ。 ⑤「生徒アンケート」の「授業がわかる」と回答した生徒は89%で前年比-4%であった。 ⑥評価基準は各教科で検討しながら適正に評価できるよう取り組んだ。 ⑦「授業満足度」は90.6%で、前年比+2%の上昇であった。	A	①ICTの活用については、教員個々のレベルで活用されており、活用レベル差が大きい。更なるＤＸ化に向け、活用ノウハウや活用教材の共有化等の工夫が必要。 ②「授業がわかる」と回答した生徒の割合が減少しており、引き続き「わかる授業」の工夫改善が必要がある。 ③評価基準の明確化について、教科ごとに検討を重ね改善していく必要がある。 ④保護者アンケートで「本校を選んだ理由」の「学び直しの充実」との回答が44.4%で、前年比-15%。学び直しの取組の継続的充実が必要である	○本校の特色であるＣＴについて生徒が実際に効果を意識できていることが大きな成果である。「授業がわかる」の項目を改善するため、授業の工夫を図る必要がある。 ○課題の提出は、提出の仕方も含めて指導すると生徒は助かる。 ○生徒に任せて、主体的に生徒同士で解決させ、足らない所をサポートすることで「学び直し」の素地ができる。
2	【現状】 学校での生活状況は概ね落ち着き安定している。学習環境を混乱させるような生徒もいない。一方で長期欠席者の減少が見られず、特に1年生の中途退学や転学が多い。 【課題】 ・本校の指導の基本を定着させることで、基本的な生活態度を定着させ、生活状況の安定を維持する必要がある。 ・多様な生徒に対して、生徒個々の実情に応じた生活支援・指導を進める必要がある。 ・ＳＮＳに係る事故防止等に向けた継続的な指導が必要である。	・指導基本「礼儀・身だしなみ・時間厳守」を継続的かつ丁寧に指導していく。 ・ＳＣ、ＳＳＷ、日本語支援員等の活用を充実させ、多面的な生活支援を進めていく。 ・生徒情報を共有し、個に応じた丁寧な指導に取り組む。	①全教職員の共通理解に基づき「礼儀・身だしなみ・時間厳守」の指導の基本を丁寧に、粘り強く指導する。 ②各種講演会等を充実させ、生活規律、社会的マナー・ルールの指導を充実させる。 ③生徒情報を共有し、適切な指導を一枚岩で行えるようにする。 ④ＳＣ、ＳＳＷ、日本語支援員等の外部の専門員を効果的に活用し、個に応じた支援を充実させる。 ⑤施設管理、清掃等を充実させ、適切な学習環境を維持する。	①「礼儀・身だしなみ・時間厳守を守っているか」の「生徒アンケート」結果が前年比向上したか。（前年：94.4%） ②生徒指導件数は前年比減少したか。（前年：10件） ③生徒指導部と学年が連携した指導が推進できたか。 ④ＳＣ・ＳＳＷ・日本語支援員による個別具体的な効果的な支援が実施できたか。 ⑤校内環境の整備は維持できたか。必要な修繕等に速やかに取り組めたか。	①「生徒アンケート」の「礼儀・身だしなみ・時間厳守を守っている」と回答した生徒は94.0%であり、横ばいであった。 ②生徒指導件数は現在まで10件であり、件数の減少はなかったが、同じ生徒が繰り返し指導を受ける状況が見られた。 ③生徒指導部は主任を中心に、学年と丁寧にかかわりながら協力して指導を進めることができた。 ④ＳＣは延べ49回、ＳＳＷは延べ23回の面談を実施。ＳＳＷは面談のほか、外部機関と生徒や保護者をつなげる活動など、学校と連携しながら積極的に活動した。 日本語支援員は、課題の大きい生徒を中心とした取り出し授業のほか、放課後の日本語指導など意欲的に取り組み、生徒の日本語を学ぶ意欲の向上が見られた。 ⑤校内環境整備は、学期１回の点検による課題発見のほか、日常的な点検を行い、必要な修繕は速やかに対応した。	A	①「礼儀・身だしなみ・時間厳守」の基本方針は徹底されており、継続が必要である。 ②様々な悩みや家庭環境等の課題を持つ生徒が多く、ＳＣ・ＳＳＷの活動の充実が必要である。 外国籍の生徒も多く在籍しており、日本語支援を手厚く実施していく必要がある。 ③校内環境整備は事務室を中心にきめ細かく実施できた。 清掃等もしっかり実施できており、きれいな環境は生徒の落ち着いた学習に寄与している。引き続き学習環境の整備が必要である。	○課題の多い生徒が多くいると感じた。 ○多様な実態の生徒に、心理面を含めて個別の指導がなされていることはとても評価できる。潜在的に必要な生徒も含めて対応を継続してほしい。 ○外国籍の生徒が多いと課題が多様化し、先生方の苦労も多くなるだろうが、様々な連携で対応されている。 ○解決を急いで「ごめんね」「いいよ」の指導をしてしまうと本人の納得が得られず自己解決力が育たない。 ○不登校生徒が通えるようになったのは自己肯定感が育ったから。妻沼高校は先生が近いのが良い。 ○子供がSOSを発することができる環境や居場所が必要。先生方には大変だがしっかり子供に関わってほしい。 ○生徒も親も良く褒めてくれるのが良い。
3	【現状】 入学段階から計画的にキャリア教育を進めており、生徒や保護者が期待する進路希望の実現に取り組み、成果を上げている一方、進路に向けた目的意識の低い生徒や、就労に向けた課題のある生徒、就労意識の低い生徒もいる。 【課題】 ・入学当初から、計画的・組織的にキャリア教育に取り組む必要がある。また、発達段階（各学年）に応じた進路指導を充実させ、進路意識や就労意識の向上に取り組む必要がある。 ・進路指導に配慮を要する生徒や保護者に対する個別具体的な情報共有や支援が必要である。	・進路指導部と各学年が連携した組織的・計画的なキャリア教育、進路指導に取り組む。 ・生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にし、個に応じた進路支援を充実させ、進路意識や就労意識の向上を図る。	①入学段階から継続して学年に応じたキャリア教育を計画的に実施し進路意識を向上させる。 ②進路情報の適時・的確な提供に努める。 ③進路希望調査や三者面談等により生徒個々の進路希望を的確に把握し支援する。 ④就職支援アドバイザーの活用や、外部専門機関との連携により、希望する就職先の実現に努める。 ⑤指導経過を振り返り、次年度の取り組みに生かす。	①「進路希望」に関する「生徒アンケート」結果のうち「未定」の割合が減少したか。（前年：11.9%） ②進路情報のタイムリーな提供に取り組めたか。 ③進学・就職等の進路が決定した生徒の割合が向上したか。（前年：86.3%） ④「妻沼高校に入学してよかった」と回答した３年生の生徒の割合が向上したか。（前年：85.4%） ⑤外部専門機関等と連携した支援が実施できたか。 ⑤進路指導部を中心とした指導の振り返りを実施したか。	①「進路希望」が「未定」は9.8%で、前年比-2.1%となった。 ②進路指導の学年別年間計画に基づき、生徒の発達段階に応じた取組や情報提供を実施した。 ③進路が決定した生徒の割合は87.3%（前年比+1%）で、自己開拓や就労支援を除き、学校を通しての就職・進学は100%となっている。 ④「妻沼高校に入学して良かった」と回答した３年生の割合は93.5%で、前年比+8.1%の上昇であった。 ⑤学年ごとに、企業や外部人材と連携した行事や講演会を実施した。また、進路についてもハローワークをはじめとする外部機関と連携したきめ細かい指導が実施できた。 ⑥進路指導についての次年度への課題をまとめ、次年度に生かしていく予定である。	A	①生徒の発達段階に応じた進路情報の提供、進路指導を継続していく必要がある。 ②就職希望が多い中、次年度から2社受験が可能となることから、改めて進路指導に係る共通理解を図る必要がある。 ③卒業後すぐに社会人になる生徒が多いことも踏まえ、進路指導はもとより様々な事項において、効果的に外部機関・外部人材を活用し、取組を充実させていく必要がある。	○「入学して良かった」と回答した生徒が8.1%上昇したのは先生方の力である。 ○自分の意志で自分のキャリアに向き合うよう生徒に指導していくことが大切。 ○先生方の面倒見がよいのは魅力的である。
4	【現状】 部活動は、活発に活動している部と十分な活動ができていない部が存在する。学校行事等では、コロナ禍での制約のため、先輩から後輩への継承に先細りが見られ、生徒による自主的な活動が難しい状況がみられる。 【課題】 ・生徒募集を充実させ、継続的な生徒の確保に努める必要がある。 ・部活動への加入を促し、活動の活性化と参加意識や意欲の向上を目指す必要がある。 ・生徒が自主的・主体的活動に取り組めるよう支援していく必要がある。	・効果的な生徒募集の実施、ＨＰによる学校情報等の積極的な発信に努める。 ・部活動や学校行事の活性化に努めるとともに、生徒の自主的・主体的な活動を奨励・支援して、達成感や充実感を味わわせる。 ・地域の活動に可能な限り参加し、開かれた学校作りに努める。	①生徒募集方法を工夫し、募集定員を確保する。 ②学校ＨＰを頻繁に更新し学校情報を積極的に発信する。 ③部活動加入率を向上させ、部活動を活性化させる。 ④可能な限り自主的・主体的な学校行事の実施に努める。 ⑤地域の小学校との交流、地域の活動への参加に取り組む。	①1月発表予定の中学生の進路希望が昨年度に比べて上昇していたか。 ②学校ＨＰのアクセス件数は増加したか。 ③部活動加入率は向上したか。（前年：42%） ④「学校生活は楽しい」と回答した「生徒アンケート」の割合が向上したか。（前年：87.5%） ⑤小学校を含む地域と連携した活動に参加できたか。	①1月の中学生の進路希望状況は0.57倍であり昨年度の0.56倍をわずかに上回った。 ②ＨＰは、教務主任の努力により毎日更新し、学校情報を精力的に公開できた。また、インスタグラムでの学校情報の公開にも取り組むことができた。 ③部活動加入率は53.6%(運動部・文化部合計)で、昨年度よりも大幅に上昇した。 ④「学校生活が楽しい」と回答した生徒は91.0%であり、前年比+3.7%であった。「妻沼高校に入学して良かった」と回答した生徒は 93.0%（前年比+5.8%）、保護者は97.7%（前年比+4.4%）であり、大きな向上が見られた。 ⑤「妻沼祭り」に参加できないなど、地域との連携や貢献に課題を残した。	A	①学校情報の積極的な発信に努めたが、入試倍率は横ばいであった。本校の「学び直し」の取組を広く周知していく必要がある。 ②生徒の学校生活への満足度は高く、生徒やその保護者による本校への評価も高かった。引き続き生徒や保護者、地域・県民の期待に応える学びの実現に努める必要がある。	○高校入試の段階で、個に応じた指導を細やかに行っていることが広く発信されると希望者が増えるのではないか。 ○受検者側は「面倒見がよい」「入試が多様性に富んでいる」に魅力を感じる。受検時にお願いしたことが叶った時に一番のPRになる。 ○部活動の加入率が上昇したのは大きな成果である。 ○妻沼には、街自体に地域連携を進める活動の場があるので、ぜひ利用してほしい。